

皆さんは、クマガイソウという 花を見たことがありますか。南高尾の秘密の場所に咲いていました。絶滅危惧種です。大きな袋状の花で見た目も不思議な感じがしますね。初めて見たときはとても感動しました。

紅葉台



新聞

第130号

2024年

5月18日

発行人：関谷 孝

健康寿命について思う

赤石 五郎

何とか 88 歳になっていた。寿命があと 2 年とか 3 年とか言う切実感もない。男性への平均寿命 81.47 歳をとくに超えていると言うのに生きているからには元気でいたい。寝たきり状態で毎日過ごすのでは困る。第一 60 年も連れ添ってくれた妻に申し訳がなからうから。ほとんど毎日よそに出かけては、友達と碁を打っている。どの碁も同じということはない。その変化は浜の真砂のように無限にある。自分の棋力に合わせて楽しめるから良いのである。そう言うと、わけもなく、ただぶらぶらと余生を過ごしているかのように思われようが、そうでもない。これでもかなり気を遣って、健康の維持に努めている。

まず禁酒禁煙。タバコは高校 1 年生の時に担任の先生が喫煙者の肺のレントゲン写真を見せてくれた。真っ黒にすすけた肺の写真を見てはもう言うまでもない。やめた、タバコはすうまいそう決めてしまった。勤めてからしばらく碁会所通いの期間があったが、その碁会所の中は煙だらけだった。無人の山小屋の中の煙もすごかったが、あれは薪を燃やして出る煙だからいくら良かっただろう。タバコの煙はいけません。そう理解はしていても碁を打っているうちには大して気にもしていなかった。今考えるとぞっとしますね。副流煙なんて知らなかったから。酒については祖父がアルコール中毒でして、それこそ毎日のように酔っ払って、暴れ家族を困らせて、拳句の果てには、例のごとく酔っ払って、フラフラと歩いて帰る途中で、大きな下水溝に落ちて死んでしまったと、父から口が酸っぱくなるほど聞かされていましたから、私が生まれる前に死んでしまった祖父の事はほとんど気になりません。ただおじいさんの二の舞だけはしたくないから、酒はほどほどにしてまあ 1 週間に 1 度ぐらいたしなむ程度ですかね。酒を飲んで家族に迷惑だけはかけたくないのです。



遺伝子組み換え ナタネ自生調査

(生活協同組合の学習会から) 講師：八田純人(はったすみと)さん 農民連食品分析センター所長

皆さんは、買い物のときに商品のラベルを見ますでしょうか。食品には、表示義務がありますが、やはり安全安心して食べられることを心掛けているのではと思います。特に高齢になって、たんぱく質をとることの重要性を感じます。その中でも大豆製品は安くて体にいいので毎日よく食べています。

しかし、一方気になるのが、日本では大豆のほとんどがアメリカ、カナダなどの外国からの輸入です。そこでは、遺伝子組み換え大豆



が作られています。私たちの食卓に上がって 27 年たちます。遺伝子組み換え食品には、トウモロコシ・ナタネ・綿などがあります。食品として加工されるだけでなく、牛の餌としても輸入されています。綿は牛の餌なのでね。初めて知りました。

遺伝子組み換えが始まったのは、食料が世界的に不足するためたくさんの作物を生産するためです。とくに DNA という遺伝子に耐性の強い遺伝子を組み入れることによって生産の安定を目指しています。まだ実験段階なので、食べた人への影響や環境への影響はまだわかりません。遺伝子組み換え食品が問題だという理由は、「種の壁を超える技術」であること「種を握れば世界を支配できる」「グローバル企業による壮大なビジネスが始まる」ということです。遺伝子組み換えで始まっていることには、①病気にかからない②殺虫毒素で害虫が死ぬ③除草剤に強い耐性をつくるなどがあります。一見いいことのように思いますがそれを私たち人間が食べることでどんな影響があるのかまだ分からないからこそ監視することが重要だと言います。

最近ではトウモロコシの芯を食い荒らす虫を空中散布では効果が薄いので、植物そのものに殺虫毒素を持たせることやフィリピンでは、2021 年遺伝子組換え稲「ゴールデンライス」というビタミン A を強化した米が作られています。それは米にはビタミン A がないので栄養不足になるためと言います。アルゼンチンでは干ばつ耐性遺伝子小麦、ブラジルでは害虫抵抗サトウキビ、アメリカでは切っても茶色くならないリンゴを作り始めました。カイコには蛍光たんぱく質を持った遺伝子を組み替え、夜に光る糸を開発しています。鑑賞用の魚にも蛍光タンパクの入った遺伝子組み換えがあります。それらが自然界に放され今後どのように生態系を変えていくかも大きな問題です。現在では食品 9 作物、添加物 7 種に遺伝子組み換えをしています。今回は、少し堅苦しい話になってしまいましたが、身近な毎日の食事や買い物にも関心を持ちたいです。

特に幹線道路沿いに咲いている菜の花は、外国からの輸入用の作物の種がトラックから零れ落ちて咲いていることが多いそうです。見分け方は、下図の通りですので見付けたら観察してみるのもいいですね。牛小屋の近くでも見つかるそうです。これを機会に毎日食べる食品にも目を向けていきたいです。

「虫が食べて死んでしまうような食べ物を人が食べても大丈夫なのかと思いませんか」



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。